

特定非営利活動法人コミュニティラジオ京都
1 月度放送番組審議会（2018 年度 第 8 回）

1.日 時 平成 31 年 1 月 23 日（水）18:30～19:50

北区役所 3 階 第 4 会議室

2.審議委員 7 名

出席委員：（委員長）中川隼人（委員）高奥英路、板垣則子、片木健二、久保駿哉、
淀野訓子

（欠席）吉村信二

3.事務局出席者及び参考人

木村博美（放送局長）

伴野義幸（NPO 法人 事務局長）

4.番組審議

1) 対象放送：（約 15～20 分程度 聴取）

平成 31 年 1 月 8 日（火）19 時 00 分～19 時 50 分 放送（再放送 23:00～23:50）

「ぶつ☆ラジ！」（佛教大学 学生による番組）

番組概要：佛教大学の有志の学生メンバーが制作し、毎週週替わりでメンバーが入れ替わり、そのグループによってそれぞれ違ったテーマでオリジナルのコーナーを設け、佛教大学生ならではの視点で、佛教大学の魅力や大学生の実態、また、京都市北区を中心とした地域の情報を発信していく。（京都市北区の補助金対象番組）

番組構成：OP トーク

特別コーナー①「頑張れ受験生」

◎ コーナー②「佛活（ぶつかつ）」「よさこい」サークル「紫踊屋」を紹介
佛教大学で活動されている部活動やサークルの方をお招きし、トークする
地域の皆さんに佛教大学生の活動について知っていただく

END トーク

2) 番組審議、意見交換

- ・ 番組構成
- ・ 取扱う題材や話題性、伝達性
- ・ 当法人が定める放送番組基準の適合性
- ・ 今後の番組制作へあたって参考事項

5.その他

1) 報告事項

2) 次回（2 月期）は平成 31 年 2 月 19 日（火）18 時 30 分～実施予定

番組審議内容

<全体構成・題材・伝達性等について感想>

- ・どこにむけて発信しているのか？ぼやけている。誰に伝えたいのかが、わかりにくい。
- ・衣装の詳しい話は最後の方に少しするくらいでもよかった
(衣装等の話もあるとは思いますが、地域活動の話をもっとしたほうがよかったのではないかと)
- ・男性パーソナリティの話がききとりにくく感じた(早口、もっとゆっくり)
- ・女性のパーソナリティは上手、フォローもされていてうまくまとめて話している印象。
- ・もっと北区・上京区の地域へ発信したほうがいい、大学内のサークル紹介だけで終わるのはもったいない。
- ・ボランティアの意味とは？意味が違うのではないかと
「ボランティア活動」の意味の解釈をもっとちゃんとしないと本当にボランティア活動を一生懸命されている方に失礼に聞こえてしまうと感じた
- ・同世代へ向けてであれば、等身大で内容はよかったかもしれない
- ・「紫踊屋」団体をしているが、もっと踊りの動きのイメージ(インパクト)があるのを伝えたらよかった。
- ・地域の方にどのようなかたちで活動しているのかをもっと伝え方がよかった
- ・地域の人と一緒にやっていることをもう少しうまく説明できたらよかったのではないかと
- ・構成メンバーがわかりづらかった。
- ・進行役の二人の名前が聞き取りづらかった。
- ・自分の意見をちゃんとそれぞれで伝えられているのがすごいと思った
- ・ちゃんと準備して話しているのもわかる内容、あいづちがきっちりとよくできていた
- ・メリハリがなくて全体的にだらりとしてしまっている
- ・トークの内容に当たり障りのないことが多く、展開が薄く感じる
- ・ひとつのコーナー尺が長く、聞き取りにくい部分もあるので最後まできくのにリスナーの集中が続かない
- ・番組構成、制作の技術がないので個人のYouTubeとしてあげていても同じことができるものになってしまっているのではないかと。
- ・学内の放送レベルになっている印象、内容にフックがなさすぎる

<改善点>

- ・OPトークでしていたインフルエンザの話、個人的な話よりはリスナーさんへ前向きに呼びかけられたらよかった
- ・「よさこい」を知らない人へ、どんな踊りかなど「よさこい」の説明があったほうがよかった
- ・質問の順序(優先)にもう少し工夫が必要
- ・ゲストに対しての質問、聞き方をもっと工夫するとよい

- ・ 進行役のパーソナリティは、やはり滑舌や言葉の知識の向上が必要
- ・ 番組構成や内容について公共の放送局でやっているからこそそのテクニカル面をもっと向上させるようにしたほうがよいと感じる。
- ・ 番組作りももっと「よさこい」の音源を流すなどしてただ話すところだけではなく、番組内で流す音楽など雰囲気作りをもっと考えて作り込む努力がほしい。
- ・ 放送局側のディレクションがもっと入ったほうがよいと感じる

<今後の参考・提案>

- ・ 放送後に局の方と反省会などをして、課題を挙げ、つぎの番組までにできることを毎回修正していくようなやり方を次年度からできるとよいと考えている
- ・ 学生さんが自分たちだけでできることで番組成立させる（こなす）のではなく、自分たちだけではできない経験をこの放送に関わることでできるようにしていけるような取り組み方をしたほうがよい。
- ・ 今後学生さんの番組の取り組み方の見直しも必要
- ・ 公共の放送をする上でどういう基準で、こういった番組をよしとするかこれをもう一度議論したほうがよい

今回の審議会では、大学生が作る番組について様々な意見がでた。
 大学とラジオ局の関係や指導方法など、たくさんの課題がでてきた審議会となった。
 局を挙げて、取り組み方や方向性を具体的に詰めていかねばならないテーマとして認識し、
 今後に生かしていきたい。

総括

今回審議対象となったものについては、当法人が定める放送番組の基準に照らし合わせてみても、これに反するものは認められなかった。

審議会議事録の開示

平成 31 年 1 月 30 日以降 法人事務局で、閲覧できるようにした。

以上